

〔No.29〕 振動・騒音に関する記述として、適切なものは次のうちどれか。

- (1) 自動車の弾性振動の例としては、自動車のバネ上振動が該当し、剛体振動の例としては、エキゾースト・パイプの曲げ振動が該当する。
- (2) 振動・騒音分析器で、自動車の振動を定量的に把握する場合は、分析器を振動計モードにして速度 (m/s) の測定を行うことが多い。
- (3) 騒音計のマイクロホンから等距離にある二つの同じ警音器を同時に作動させたときの音圧が102dBの場合、警音器一つの音圧は100dBである。
- (4) 騒音を測定する場合、測定対象の音を止めたときと、止めないときの差が 10dB 以上あれば、暗騒音の影響はほとんど無視してよい。